

『広瀬川の清流を守る会』活動の報告

自 平成11年5月21日

至 平成12年3月31日

<設立> 1999.5.21 会員数58名(平成12年3月31日現在)

[会長] 日下 均

[事務所所在地] 仙台市太白区長町1-7-32 昭和宅建内 ☎ 247-6522・fax 249-3234

[ホームページ] village.infoweb.ne.jp/~fwbc5210/hirose/ (変更予定 http://www.hirosegawa.com)

➤ 団体活動概要

平成11年5月、仙台の象徴である広瀬川の清流を次世代に繋ぐと『広瀬川の清流を守る会』を設立。仙台市の100万人都市達成を機会に広瀬川をテーマとした環境を市民の立場より考える活動を目的とする。広瀬川は都市化の進展により水需要が増大し、水の枯渇が懸念されている。それは特に灌漑期の下流域において毎年、慢性的、長期的に現れ、春季遡上するオオガイ、ハヤ、アユなどの魚類や水生生物に大きな影響を及ぼしている。また不法投棄ゴミ、流入する堀や側溝からの汚水。これら清流維持に対する問題点を的確に把握し、平成9年改定の新河川法に定められた環境に配慮する広瀬川のありかたを学び、現在の河川状況の問題点について官民あげてその対応を考え、市民の側から行動する。

➤ 具体的活動として

『広瀬川公開講座』と例会の開催

毎月第4水曜日、午後6:30より太白区中央市民センターで『広瀬川公開講座』(河北新報読者の広場掲載他広報)を開催。広瀬川の現状の問題点や解決策の検討を、講師を招いて一般市民とともに学ぶ企画。

国、県、市の河川行政や利水者、事業者、環境活動など広瀬川に関わるいろいろな立場から講師に学ぶ。

同時に広瀬川の清流を守るため立場を越えた協働の道を探る。

- 第1回講座(6/25) テーマ『広瀬川の現状と課題』 講師:建設省仙台工事事務所 調査第1課長 松井幸一氏
- 第2回講座(7/27) テーマ『河川愛護活動』 講師:仙台南広瀬川環境美化推進協議会 会長 佐々木両道氏
- 第3回講座(8/25) テーマ『もうひとつの広瀬川 四ツ谷用水』 講師:仙台水の文化史研究会 会長 佐藤昭典氏
- 第4回講座(10/27) テーマ『広瀬川の清流を守る条例』と本年6月発表『仙台市水環境プラン』
講師:仙台市環境局環境計画課 課長 佐藤正基氏
- 第5回講座(11/24) テーマ『ホタル飼育実践と地域コミュニティー』
講師:建設省仙台工事事務所交通対策課 課長 遠藤隆一氏

報告 テーマ『六郷、七郷堀導水試験』(11/8~11/11) 結果報告

- 第6回講座(12/22) テーマ『にっぽん川紀行』より 講師:NHK仙台放送局 制作ディレクター 佐々木修次氏
- 第7回講座(H12.2/23) テーマ『魚類から見た広瀬川の現状』 講師:広瀬名取川漁業協同組合 理事 阿部 馨氏
- 第8回講座(H12.3/22) テーマ『きれいな水 ダム建設から管理まで』 講師:大倉ダム管理事務所 所長 相沢 英資氏

ホタル事業

かつて広瀬川に生息し、絶滅したホタルの再生を目指して取り組む事業(恩師 浅田義邦先生の夢)地域の小学校、町内会、関係団体と協力、ホタルの生育観察を通して身近な水環境を継続的に学んでいく。

- 6/18 金成町へ採卵用源氏ボタル採取。翌日、長町小学校へ観察用に専用水槽に入れ持参、孵化。
- 6月末 太白区長町1丁目郡山堀にホタル飼育水槽を設置(3m×1.5m H=2.4m)
孵化後順次ここで飼育のため幼虫を移動。来年成虫後各小学校や団体へ分けながら個体数を増やす基地とする。
- 7/15・7/28 亘理町吉田地区へ平家ボタル採取。地域会員宅で子供達の鑑賞会を実施。孵化。
現在 合計およそ1000匹のホタル幼虫を飼育中。水温、BOD、COD水質調査中(毎日)
- 11/25 長町小学校全4年生『広瀬川とホタル』で講演(日下)
- H12.1/19 片平丁小、ホタル幼虫と水槽セット持参 全4年生『広瀬川とホタル』で講演(加藤、日下)

現在協力要請の来ているところ 大倉小、中山小、亘理町吉田小、旭ヶ丘町内会
他に予定しているところ 八本松小、若林小、南材小、八木山小

(その他) 広瀬川水質調査試薬等の学校への提供(長町小へ実施済み)

BOD、COD水質調査技術と試薬の提供。環境ホルモン調査の支援も検討。

ビオトープ構想の提案 (太白区役所へ提案済み)

仙台市長町副都心土地区画整理事業地内音楽堂建設予定公園内に郡山堀を利用したビオトープ構想の計画を提案。ホタル、トンボ、メダカなどの生息環境を作る。

防災とまちづくりの提案(仙台市へまちづくり検討会で提案済み)

365日水のある郡山堀の活用のありかたを提案。直下型地震の懸念がある長町地区の防災に備えた水の活用と親水空間を活用。そして、広瀬川本流の環境保持と河川空間をまちづくりに活かす方法を検討。

『広瀬川通信』(季刊)発行 創刊号 10月 2号 H12年 2月

編集長ほか5名の専門委員が広瀬川の四季、自然、歴史、文化、生活、思い出など一般の投稿も含め、活動状況の情報発信と交流の場を目差す。

『ホームページ』 hirosegawa.com

新生ホームページで広瀬川のカテゴリ - (自然、歴史、文化、経済)「今日の広瀬川」を発信。仙台の象徴「広瀬川」をグローバルスケールでPRする。

『広瀬川何でも相談室』

市民のために広瀬川に関する何でも相談室の窓口を設置し市民の川に対する苦情、相談、意見を一元的に受け付け、直接返答あるいは行政窓口の紹介を行う。またそれらの内容をまとめて河川管理者や関係者と協議し、川づくりに生かし官民協働を推進する。

よみがえれ清流

『広瀬川市民シンポジウム』 みんなで考えよう広瀬川の水環境

日時：平成11年9月20日(月)午後6:30～9:00

場所：太白文化センター 楽楽楽ホール (入場無料)

主催：広瀬川の清流を守る会

<第1部> 対談『森は海の恋人』著者 畠山重篤氏 司会 伊勢みずほ
(聞き手)宮城県環境生活部次長 樋口 美智子氏

<第2部> パネルディスカッション

『広瀬川水エコロジー』よみがえれ清流

パネラー 牡蛎の森を慕う会 代表 畠山重篤氏

宮城県環境生活部 次長 樋口美智子氏

水の文化史研究会 会長 佐藤昭典氏

建設省仙台工事事務所 所長 猪股純氏

司会(コーディネーター) 広瀬川の清流を守る会 会長 日下均

『森は海の恋人』著者 畠山重篤氏と宮城県環境生活部次長樋口美智子女史との対談でなぜ漁民が山に木を植えるのかその理由を聞き、またひろく環境についても話を聞いた。

さらに、昨年畠山氏の著書『リアスの海辺』に記された『貝道を行く』で三陸リアスの海とスペインのリアスの海も同じ森の広葉樹がもたらす豊饒の海であった。など興味のある話が出た。

第2部においてはパネルディスカッション形式で、佐藤昭典氏が仙台の基を築いた伊達政宗公以来の生活と切り離すことができなかつた水の文化について説明し、仙台の豊かな水と緑にあふれた文化的な町であったことを強調。そして国の立場からは猪股氏が広瀬川の現状と課題またその対応策について河川行政の面より分かりやすく解説。環境に配慮した新河川法について話し、また新たに広瀬川の河川環境を考える協議会設立を発表した。

佐藤氏、猪股氏の話に対し海の立場からの畠山氏とNPO推進者の樋口氏が加わり、広瀬川を良くするため市民の立場から何ができるか議論を進め来場者の関心を高めた。

司会進行役は広瀬川についてこれらの一連の活動を続ける『広瀬川の清流を守る会』会長日下均がつとめた。

約200名の来場者は提起された問題にそれぞれの思いを託し、アンケートに広瀬川の将来の考えを記載された。

今回のシンポジウムをきっかけとして「広瀬川の清流を守る会」入会者が18名であった。